今月の範囲

第二部　実践編
第八章　伝統報恩
二、(三) 日常生活における各伝統への報恩

モラロジー研究所の概論講座で使用される改訂『テキスト モラロジー概論』について、今月は第八章の(三)の「日常生活における各伝統への報恩」を図解します。

図解！
モラロジー入門㉔

モラロジーを楽しく、平易に学びたい――。そんな要望にお応えして、この連載では改訂『テキスト モラロジー概論』の内容を図で解説します。ご自身の学習に、あるいは勉強会の資料としてご活用ください。

構成＝「れいろう」編集部

家族への感謝と報恩

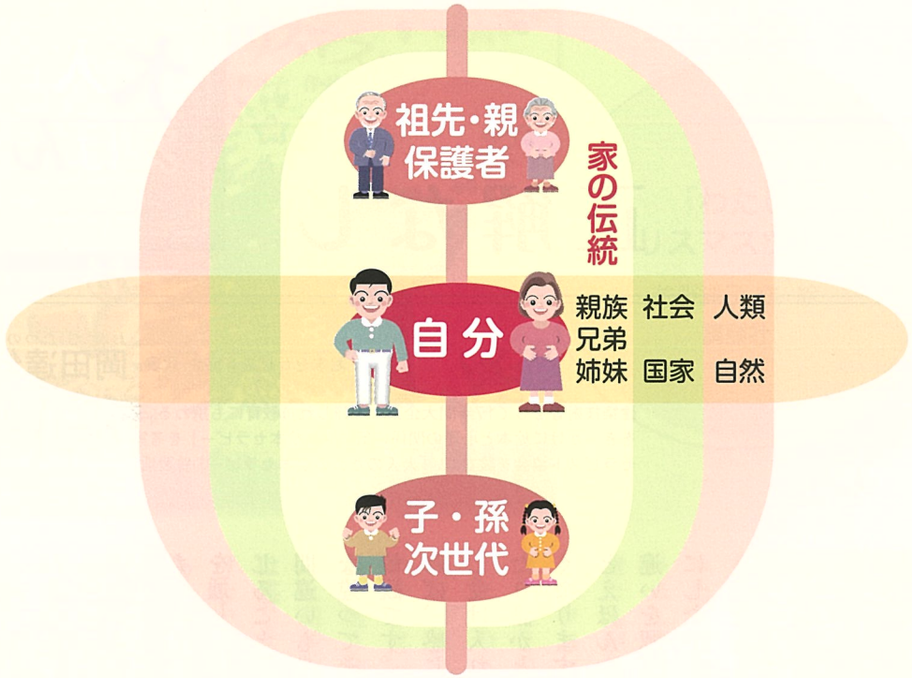
――「当たり前」の存在こそが「有り難い」

教育研究室研究員　江島顕一（えしまけんいち）

私たちは様々な人々に支えられて生かされている存在です。モラロジーは、そうした恩人の系列を「伝統」と名づけ、親や祖先などの家庭における恩人の系列を家の伝統、社会や国家における恩人の系列を国の伝統、人類の精神を導いてきた恩人の系列を精神伝統と、三種に分けています。モラロジーは、こうした時間的、垂直的関係のいわば縦軸の関係にある系列への感謝と報恩も、品性の向上につながる大切な道徳としています。

しかし、私たちはこうした諸伝統に対する報恩に積極的ではない傾向にあります。なぜなら、伝統から私たちへの恩恵が「当たり前」のことであると思いやすいからです。例えば、自らの命の連続性や偶然性を常に自らに問いかける人はいないでしょう。しかし一方で、私たちは、誰かに親切にされたり優しくされたりすると、それに返礼しようと報恩の気持ちが湧（わ）き上がります。なぜなら、それらが文字通り「有り難（がた）い」ことだからです。私たちは、「ありがたい」ことには自覚的ですが、「当たり前」のことには目や気が向かないところがあります。

図25　横軸の道徳と縦軸の道徳



「当たり前」のことと思いやすい縦軸の関係である諸伝統に目を向け、その恩に報いていくことも品性向上には求められるのです。

しかし、よく考えてみると、私たちの生命や生活を根底から支えているのは諸伝統のうち、家の伝統であるといえます。モラロジーは、そうした理解のもとに、家の伝統に対しては次のような報恩のあり方を説いています。すなわち、①祖先を敬うこと、②家族へ感謝すること、③次世代を育てることです。①は、私たちの命が祖先から受け継がれてきたものであることを自覚し、祖先に喜んでいただけるような生き方をすることです。②は、自分を育ててくれた親や保護者に感謝の気持ちを持って、安心を与えていくことです。③は、子や孫を責任をもって養育したり、あるいは親族の若い人を社会に役立つ立派な人材に育成することです。

私たちは今一度、自らの周りをじっくりと見わたし、祖先や親、次世代などの「当たり前」の存在と考えている人たちに思いを馳（は）せ、その恩に報いていこうとすることが大切です。

そして、こうした道徳実行の視点を水平的な横軸だけではなく、垂直的な縦軸にも及ぼして実行していくところにモラロジーのひとつの特色があるのです。